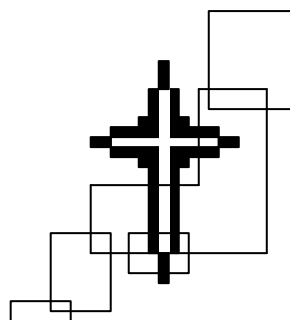


# 日本のための とりなし

わが国のために祈りましょう  
ニュースレター9月号  
2001年8月26日発行



日本のためのとりなしの会

\*事務局：〒228-0802 相模原市上鶴間 6-1-17 皆川方

TEL042-747-5703, FAX042-746-2119

URL: <http://www.Christ-ch.or.jp/>

\*振替：00270-7-6421

\*委員：(長)皆川 尚一(神奈川県)

友納 徳治(福岡県)

手束 正昭(兵庫県)

林田 金弥(神奈川県)

行澤 一人(大阪府)

久保 有政(埼玉県)

## 日本にあった贖いの思想

久保有政

### 日本にあった贖いの思想

日本には昔から、贖いの思想がありました。

日本の古神道には、「大祓いの儀式」というものが伝わっています。これは日本の国の一切の罪汚れを払いやる儀式です。宮中や各地の神社などで、毎年六月三〇日と一二月三一日に行なわれます。

大祓いの儀式の時、天皇は麻の衣を着て紫宸殿に来られます。麻の衣というのは、いわば囚人服、一番卑しい姿の服です。天皇が卑しい姿になって、大祓いのお祭りをなさる。

それが終われば、その衣は小さな舟に乗せて、当時都のあった京都から加茂川に流されました。そして大阪の浪波洲まで流れ、波の中に消えるまで見届けたものです。

そのときに、ある祝詞が唱えられます。

どんな祝詞が唱えられるかといいますが、天皇家は高天原から天降って、豊葦原の瑞穂の国、日本列島を治めることになったけれども、国中にいろいろの罪が起きてくる。これはどうしても処分しなければならぬ。

ところが、この罪というものはしづといもので、なかなか処分できるものではない。だから、ちゃんと日を決めて、天皇が国民のた

めに大祭司となって贖いの儀式をする。

そして国民の一切の罪汚れをその麻の衣に託して、川に流して捨てるということをするわけです。そういう罪のしづとさと、贖いの必要がその祝詞の中に述べられています。

「日本人には罪の観念がない」という人もいます。しかし、罪の観念は今の日本人には乏しいかも知れませんが、このように古代の日本人ははっきりと持っていたんです。

詩篇五一篇でダビデは罪の処分ということで非常に苦しんでいます。古代の日本人も、罪というものは煮ても焼いても簡単には処分できない、という認識を持っていました。それが大祓いの時に唱えられる祝詞の言葉からわかります。

古代の日本人は、罪の処分ということでいかに苦しんだか。罪というものは非常に消しがたい。そして古代の日本人は、罪の処分をきちんとしなければ新しい年を迎え得ないと思ったものです。

これは旧約聖書にある思想と同じです。レビ記に書かれてあるアザゼルのやぎの風習と同じですね。

アザゼルのやぎというのは、イスラエルの大祭司がやぎの頭に手を置いて、

「ああ神様、どうかイスラエルの民が犯しました罪、いわく言い難いような罪をどうかはるかかなたに追いやり、すべてを赦して下さい」

と祈ります。そしてそのやぎに民のすべての罪を背負わせて、見えない所まで引いていきます。そして地平線のかなたに、このアザゼルのやぎが消えていくのを見届けます。そうすると、

「ああ、私たちの罪は見えない所に運び込まれてしまった。これで神様も私たちの罪をご覧にならない。我々お互いも、過去に犯した罪をあばいてはならない。だから我々はもう滅びることはないんだ」

と感謝したのです。そういう儀式を毎年行ないました。

今日のユダヤ人にはまた、タシュリックという風習があります。今はエルサレムの神殿がありませんので、彼らはアザゼルのやぎの代わりに、タシュリックというものを行ないます。

これは、小石をじっと握りしめています。自分の体温と小石が同じになるまで握っている。そして湖か川か海に行きます。そこで、今までのすべての罪を思い起こします。そのあと、ミカ書七章の、

「すべての罪を海の深みに投げ入れて下さい」

という御言葉が読まれます。そして思いっきり遠くに、その石を投げるのです。それはその石と共に罪が海の中に投げ入れられて、神の御前から遠ざけられると考えられたからです。

これは大袂い（おおたもと）の思想と同じです。日本では流しびな（ながしびな）ということもしますけれども、みな同じ考えから来ています。アザゼルのやぎといい、タシュリック（たしりく）といい、大袂い（おおたもと）といい、流しびな（ながしびな）といい、みな同じ考えではありませんか。

そうであれば、日本人は本来、キリストの十字架の贖（あがな）いを理解しやすい国民なのです。なぜ今まで、このことに気がつかなかったのでしょうか。

なぜ西洋のキリスト教が日本に根づかないか

日本に来る宣教師の多くは、日本の伝統・

文化を否定して、その上にキリスト教信仰を植え付けようと努力してきました。

また日本人の牧師や伝道者も、日本の伝統・文化を否定することが日本人にキリスト教信仰を植え付ける道だと、思ってこなかったのでしょうか。

しかし、聖書に書いてあることというのは、むしろ日本の伝統や文化の上に立ってこそ、よく理解できるものがたくさんあるのです。日本の伝統や文化の上に立ってこそ、よりよく理解できる聖書の世界というものがあります。

多くの宣教師が日本に来ながら、なぜ日本にキリスト教が広まらないか。なぜ西洋のキリスト教が日本に根づかないか。私たちはその理由をとくと考えるべきです。

日本の文化・伝統を全否定するようなキリスト教は、決して日本に根づきません。また、私たちは日本の文化・伝統を必ずしも否定する必要はないのです。

なぜなら、日本の文化・伝統の中には、本当は聖書の真の教えを理解するための非常に肥沃な土壌が含まれているからです。

みなさん、日本の伝統を完成し、本当の意味で実現するものは何でしょうか。

それは聖書が私たちに教えている福音です。イエス・キリストの福音こそ、日本の伝統と文化を生かしつつ、かつ完成するものです。

## 神道と「偶像崇拜」

私たちはとかく、神社といえば「偶像崇拜だ」と言ってきました。

たしかに広い意味では、もし真の神以外のものを神とするなら、それは何でも偶像崇拜です。お金でも、欲望の実現でも、神以上にそれらを大切にすれば、それは偶像崇拜です。

しかし、狭い意味ではどうなのでしょう。神道は偶像崇拜だ、と簡単に決めつけるのも、西洋神学しか学んでこなかった伝道者がよく陥る過ちなのです。もちろん、今の神道が全く正しいと言うものではありません。

けれども、たとえば仏教の寺に行ったら、

たくさんの偶像があります。ブツダの形に彫った像を作って、それを拝んでいます。では、神社には神や神々の形に彫った像があるかという、ありません。

神社の本殿には何が置いてあるかと言ったら、そこには鏡が置いてあったり、幣が置いてあったりします。では神道の信者は、それらを神様そのものと考えているかという、考えていません。

神道では、神様は目に見えないおかたと考えられているのです。ですから彼らは決して偶像を作りません。神社の本殿に置いてある鏡や幣は、そこが目に見えない神の霊が降臨する神聖な場所だということを示すために置かれているに過ぎないのです。

本殿に置いてある鏡や幣は、偶像として置かれているわけではないのです。

昔、イスラエルの幕屋の中には、十戒の石の板、アロンの杖、マナの入った壺という三種の神器が置かれていました。

それらは偶像ではありませんでした。それらはそこが神の霊の降臨する神聖な場所であるということを示すために置かれていたのです。

神社の本殿に、鏡や幣が置かれるのも、それと同様の考えです。そこが目に見えない神の霊の降臨する場所と考えられているからです。

日本神道では、神は目に見えないお方と考えられているのです。もちろん、多神教に墮落しているとか、神道には様々な欠点があります。

しかし、よく考えてみると、神道で決して偶像を作らないという一点を取ってみても、非常にイスラエルの宗教に似ているのです。こうした宗教というのは、じつは世界でもまれに見るものです。

ギリシャ神話でも、神々の形にかたどった様々な偶像を作ります。ゼウス神の偶像、アルテミス神やアフロディテ神の偶像などを作ります。インドのヒンドゥー教も偶像で満ちています。

しかし、日本の神道は昔から神や神々の形に彫った偶像というものを作りません。こう言いますと、ある方は、

「神社には、狛犬といって、ライオンのような動物が参道の両わきにすわっているではありませんか。あれは偶像ではないのですか？」

というかもしれません。しかし、神道の信者はあれを神様とは思っていません。狛犬というのは、神社の守り役にすぎないのです。

古代イスラエルにおいても、エルサレムの神殿には、ライオンの像やレリーフがあったと旧約聖書に記されています。それらが偶像ではなかったのと同じです。

狛犬は神社の守り役にすぎません。それを拝んだりはしないのです。

ここにおいても、不思議なことに神社というのは、古代イスラエルの神殿によく似ていることがわかります。

大切なのは、私たちが日本の伝統や文化、歴史を学び直し、いかにしたらその流れの中にある日本人に福音を伝えることができるのか、真剣に祈り求めていくことでしょう。

## メシアニック・ジューになぜリバイバルが起きたのか

私たちの多くは、プロテスタントに属しています。しかし、プロテスタントはもともとカトリックから枝分かれしたものです。神学的にはカトリック神学から七〇～八〇%を受け継いでいます。

プロテスタントでは、「聖書に帰れ」「初代教会の教えに帰れ」という運動が何度も起こったので、原点に帰ろうという気運があります。しかしそれでも、カトリックから出たために、知らず知らずのうちに、カトリック的影響を今も内に持ち続けています。

プロテスタントというのは、カトリックほどではないにしても、いまだに西洋的なキリスト教なのです。

最近、ユダヤ人の間に、クリスチャンになる人々が増えています。彼らを、メシアニック・ジューといいます。

この二千年間、ユダヤ人の間にはクリスチャンになる人々がほとんどいませんでした。ところがここ十年間に、みるみるクリスチャンが増えています。なぜでしょうか。

それは、メシヤニック・ジューの神学を見ればわかります。彼らの神学は、カトリック神学ともプロテスタント神学とも違います。

何が違うかと言えば、"キリスト教のユダヤ性"をしっかりと見つめているという点です。キリスト教はユダヤに興ったものであり、イエス・キリストもユダヤ人だったのです。

当たり前のことと思うかも知れませんが、その当たり前のことを、きちんと彼らはユダヤ人の立場から捉え直したんです。

彼らの神学を、「メシヤニック・ジュダイズム」といいます。「ジュダイズム」というのは、ユダヤ教という意味です。また「メシヤニック」は、メシヤなるイエスを信じるという意味です。

彼らは自分たちを、キリスト教徒というよりは、むしろ"イエスをメシヤと信じるユダヤ教徒"と認識しているのです。

イエス様を信じるんですから、キリスト教徒なんですけれども、それでも自分たちを「ユダヤ教徒」「イエスをメシヤと信じるユダヤ教徒」と呼ぶ。

こう考えることは、彼らにとって非常に重要な意味を持っています。なぜなら、イエスをメシヤとして信じることは、自分たちのユダヤ人としてのアイデンティティをむしろ確立することなのだ、という意識があるからです。

つまり、ビリーバー(信者)になることは、ユダヤ人であることを捨てることではない。むしろ本当に自分のユダヤ性を確立することなのだ、という認識です。

この考え方が、いまや多くのユダヤ人をイエス・キリストに導いているんです。そして急速な勢いで、メシヤニック・ビリーバーたち(イエスをメシヤと信じるユダヤ人)が増えている。

このように、メシヤニック・ジュダイズムの神学では、ユダヤの伝統を非常に重んじ、ユダヤ性を真の意味で回復しようとしています。したがって彼らはユダヤの祭りを熱心に守り、旧約の律法をも非常に重んじます。

カトリックやプロテスタントの神学では、キリスト教をユダヤ的なものから脱皮させ、むしろ知らず知らずのうちにローマ的なもの

にしていました。このためにユダヤ人にとっては、それは「異教」に見えて、つまりいてキリスト教に來れなかったのです。

しかし今やメシヤニック・ジュダイズムは、ユダヤ人をイエス・キリストに導きつつあります。

## ユダヤで起きたことは日本でも起こり得る

日本ではどうでしょうか。

今までのキリスト教においては、日本人がクリスチャンになると、なんとなく日本人であることをやめたような感じではなかったでしょう。

しかし、メシヤニック・ジュー(イエスをメシヤと信じるユダヤ人)たちは、イエス・キリストを信じることはユダヤ人であることをやめるのではなく、本当のユダヤ人になることだと、信じました。

キリスト教こそが、ユダヤの伝統を完成させるものだ、という考えです。この考え、この信仰に立ったとき、彼らの中にリバイバルの炎が広がっていきました。

日本でも同様のことが言えます。

クリスチャンになることは、日本人をやめることではない。むしろ本当の日本人らしい日本人になることなのだ。キリスト教こそが、日本の伝統を純化、完成、成就するものなのだ、という考えが大切ではないでしょうか。

もちろん、ユダヤと日本では、多くの違いがあります。メシヤニック・ジュダイズムがそのまま日本人に当てはまるわけではありません。ちょうど、メシヤニック・ジューたちの中にメシヤニック・ジュダイズムが開示されたように、日本人自身の中に開示されたキリスト教というものが必要です。

西洋のキリスト教をそのまま輸入するのではなく、日本人が聖書の純粋な教えを直接的にしっかりと消化して、その上でそのキリスト教を日本に展開していくことです。

ユダヤ人はよく、日本人をみて、日本人のメンタリティ(精神性)はユダヤ人のによく似ている、といっています。

今でも多くの日本人クリスチャンは、日本でクリスチャンになったことは、何か外国の神を信じたことのように感じているのではないのでしょうか。自分もそのように感じ、未信者たちからもそう思われているのではないのでしょうか。

しかし、本当はそうではないのです。イエス・キリストを信じてクリスチャンになることは、日本人にとって、今までの日本の伝統を止揚し、引き上げ、確立することです。それは本当の意味で、日本人性を確立することです。

私は最近、本当にそのことを感じます。こ

の日本で、日本人としてクリスチャンになって良かったと。日本人クリスチャンでなければ開けない世界があるのです。

日本人がクリスチャンになることは、日本の伝統の否定を意味しません。むしろそれを回復し、高め、純化し、完成させるものです。

日本は、他のどの国にも見られないほど、ユダヤ的な国です。日本は多くの点で、ユダヤに似ています。ユダヤで起こったことは、また日本でも起こり得ることなのです。

私たちの祈りが、そのことに向けられるなら、きっと主は大きなみわざをなされることでしょう。



## 地域別とりなし祈禱会

### 1. 北海道

札幌市 : キリスト公会 札幌グレイス教会 皆川尚一牧師  
 〒001-0032  
 札幌市北区北 32 条西 5-3-27  
 TEL 011-717-1801 毎月第 2 日曜日午後 2 時

### 2. 岩手県

水沢市 : ザ・リバイバル・東北祈りの家 高橋範明  
 〒023-0813 水沢市中町 26 レストラン・プレイズ  
 TEL 0134-62-3561 毎月第 3 日曜日 午前 7 時 00 分

### 3. 埼玉県

蕨市 : 蕨とりなし祈禱会 鷺谷世嗣兄  
 〒335-0003 蕨市南町 3-3-12  
 TEL0484-42-0967 毎月祝祭日午後 2 時

### 4. 東京都

東京都内 : 東京中央とりなし祈禱会 皆川尚一牧師  
 \* 会場 早稲田奉仕園セミナーハウス(東京都新宿区西早稲田 2-3-1)  
 \* 連絡先 〒228-0802 神奈川県相模原市上鶴間 6-1-17 皆川尚一牧師  
 TEL042-747-5703、FAX042-746-2119 毎月第 3 月曜日午後 6 時 30 分 ~ 9 時

東京祈禱会 山浦もと姉  
 \* 会場 キリスト教婦人矯風会館 B - 1(新宿区百人町 2-23-5)  
 \* 連絡先 〒350-0812 埼玉県川越市下小坂 612 主の園 3-25 山浦もと姉  
 TEL0492-34-7049,FAX0429-31-5552 毎週第 1・第 3 月曜日午後 6 時 30 分

### 5. 神奈川県

横浜市 : 聖書とお茶の会 吉田久子姉  
 〒241-0836 横浜市旭区万騎が原 8-9 吉田方  
 TEL 045-363-5657  
 毎週金曜日午後 2 時

相模原市 : キリスト公会相模大野教会 皆川尚一牧師  
 〒228-0802 相模原市上鶴間 6-1-17  
 TEL 042-747-5726,747-5703 FAX 746-2119  
 URL <http://www.Christ-ch.or.jp/>  
 毎月第 2 水曜日午後 7 時 15 分、毎月第 2 木曜日午前 10 時 15 分

### 6. 長野県

小県郡 : 丸子町キリスト教会 松吉理枝子牧師  
 〒386-0404 長野県小県郡丸子町上丸子川原 1710 - 1  
 TEL 02684-2-5264 毎週水曜日午後 7 時 30 分

### 7. 静岡県

静岡市 : リビングウエイ・チャーチ リッキー・ゴードン師

〒420-0841 静岡市上足洗4丁目6-16-7  
TEL 054-248-4058 毎月第1日曜日午後2時

## 8. 京都府

京都市 : キョート・プレイヤーグループ シスター・イヴァ・フランシス・チェレギーノ  
〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル カトリック会館5F  
TEL 075-241-3867 毎週火曜日午後7時 英語の祈禱会

## 9. 大阪府

寝屋川市 : 日之出キリスト教会 滝本千歳牧師  
〒572-0835 寝屋川市中木田町26-9  
TEL&FAX 0720-22-9232 毎月第3木曜日午後2時

## 10. 兵庫県

高砂市 : 日本キリスト教団 高砂教会 手束正昭牧師  
〒676-0015 高砂市荒井町紙町1-34  
TEL 0794-42-4854 FAX 42-4878 毎月第4水曜日午後9時30分~12時

## 11. 福岡県

福岡市内 : 福岡新生キリスト教会 竹田 浩牧師  
〒811-1344 福岡市南区三宅3-33-1  
TEL 092-561-4232 毎朝午前5時00分

伊都キリスト教会 友納徳治牧師  
〒819-0167 福岡市西区今宿井尻12-4-1  
TEL 092-807-9080、FAX 807-2298 毎月第3水曜日7時30分

## 12. 大分県

別府市 : フルゴスペル イエスキリスト教会 永野誠治牧師  
〒874-0933 別府市野口元町10-1  
TEL & FAX 0977-26-3692  
e-mail:fg.jesus@poppy.ocn.ne.jp  
毎週金曜日午後7時30分

## 13. 沖縄県

那覇市 : ホサナキリスト伝道所 喜瀬慎秀牧師  
〒900-0031 那覇市若狭2丁目9-5 毎週土曜日午後6時  
TEL 098-868-5641

## 2001年9月号祈りの焦点

### (1) 継続的課題

1) カルト集団である創価学会の日本国の政治に対する支配力が急速に減少するように。

〔解説〕

\* 去る7月の参議院議員選挙において公明党は比例代表の得票数一千万票を獲得する目標を立てましたが、結果は八百十九万票で、目標数には達しませんでした。

2) 天皇陛下が主イエス・キリストに在って救われ、大いに祝福され、その祝福が遍く日本国民の上に及びますように。また、天皇陛下が世界の諸国民の中であって、祝福の基として用いられますように。そして、国民が天皇陛下を先達として理解し、尊敬して、国際平和のためにつくすように祈りましょう。

〔解説〕

\* 工藤美代子氏(ノンフィクション作家)の「マッカーサー伝説」(日本経済新聞社7月15日、22日、8月5日各号連載)によれば、昭和天皇のマッカーサー元帥に対する信頼は厚く、また、マッカーサーの日本をキリスト教化したいという強い意志と熱情から多大の影響を受けたご様子であったという。さらに皇太子の教育に仕えたヴァイニング夫人や植村環牧師による聖書のご進講などにも動かされて、ついには昭和天皇ご自身が真剣にクリスチャンになることを考えられるようになった。天皇のままでは難しいならば、天皇を退位しても良いとまで思われたらしい。しかし、天皇の周囲の警戒心と反対が強くてこれは実現に至らなかった。また、聖書一千万冊配布と宣教師の増加により日本のキリスト者数は二千万人になったという偽情報をマ元帥は信じて、昭和22年2月に米陸軍省に報告しました。昭和25年6月に日本を訪問したジャーナリストのジョン・ガンサーは、「非常に多くの日本人が、今日なお神道の信者であることは疑問の余地がないので、この改革が完成するまでにはまだまだ長い年月がかかるだろう」と予測していたということです。

3) 互いに批判し合い、反目し合ってきたキリスト教会とユダヤ人、カトリック、プロテスタント、そしてペンテコステ、および各教派・各教会の間に、悔い改めと和解が起るように。

〔解説〕

\* エキュメニズム(世界教会一致運動)というのは、多様化を内包した一致であると考えられますので、今は非常な困難がありますけども、聖霊における一致を祈り求めて行きたいと思えます。

4) 日本人がクリスチャンになることによって、日本の伝統を否定せず、むしろそれを回復し、高め、純化し、完成するために仕える者となるように祈りましょう。

〔解説〕

\* 久保先生のレポート「日本にあった贖いの思想」をお読みください。

5) マルコーシュ・ミッションの働きが進展するように。また、リバイバルの購読部数が2700部に増えましたので、更に5000部へと増えるように。また、リバイバル新聞の内容が更に充実したものとなるように祈りましょう。

6) TV・ラジオ・新聞・雑誌関係者たちがおごりと偏った報道や人権無視の取材を止め、神を畏れたフェアな在り方をするように。これらに気付いた人が抗議や訂正の声をあげ、日本の見張り人の役を果たすように祈りましょう。



7)日本に亡国の危機をもたらす少子化傾向がくい止められ、神の御心にかなった増子化対策が社会全体の祝福によって実施されるように祈りましょう。

「神は彼らを祝福して言われた、《生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ》」(創世記 1:28)。

〔解説〕

\* 1930～40年代のフランス、1970年代のイギリスや西ドイツは、いずれも政治の混乱、経済力の低下、社会道德の頹廃、そして出生率の低下と少子高齢化に悩みました。しかし、ド・ゴールやサッチャーという優れた指導者の登場による国家意識の再生、国家の将来像の展望が与えられ、危機から次第に脱却し、出生率が増加し社会的無気力状態から立ち上がって行きました。日本の出生率は2000年度に前年よりわずかに上昇(1.34～1.35)しましたが、更に上昇するためには明るい日本の未来像が必要でしょう。

(2)時宜的(タイムリーな)課題

1)小泉内閣が神を畏れ、日本の進路を誤ることなく、日本国の独立性を確保すると同時に、国際平和に貢献できるような政治を行うように祈りましょう。

〔解説〕

\* これまで小泉首相は「構造改革は必ずやる。国民は痛みを耐えてほしい」と繰り返すだけで何ら具体策を示さないで来ました。しかし、参議院議員選挙が自民圧勝により終わった今日こそ、明確な改革の具体策と痛みの実体を示し、それに耐えて乗り切っていく道と明るい日本の未来像を国民の前に示すべきであります。

2)キリスト教会が教会右翼運動からも、教会左翼運動からも守られて福音信仰の基本に立ち続けることが出来るように祈りましょう。

〔解説〕

\* 日本では多くの教派に分かれていたプロテスタント教会は、昭和15年、皇紀2600年の神嘗祭に青山学院に集まり、国歌斉唱のうちに皇運と大東亜共栄圏を奉祝し、「日本基督教」による教派解消と大陸伝道を誓い、翌昭和16年、35教派合同の「日本基督教団」を公式に設立し、聖戦の目的完遂のための宗教報国を誓いました。これは過去において日本のキリスト教会が経験した教会右翼運動でした。

しかるに1945年の敗戦を契機に、日本のキリスト教会は右傾化を悔い改め、大きく左傾化に転換して来たのです。日本キリスト教団は1966年「戦争責任告白」を行いました。教団は中核派の教会幹部たちによって、天皇制反対、靖国反対、資本主義反対、成田空港建設反対、部落差別反対などのいわゆる「社会派」路線に乗せられました。これは、日基教会、改革派、バプテスト等や、キリスト新聞、クリスチャン新聞にも波及して来ました。日本のキリスト者はキリストの愛と善意と正義の証し人としての責任を担うつもりで知らず知らずのうちにゴルバチョフ主導の新共産主義の世界的ネットワークの中に組み込まれつつある事に目覚める必要があるでしょう。【別紙の澤田論文参照】

3)日本キリスト教団の中に結成された「聖霊刷新協議会」(代表 手束正昭牧師)が、教団内にカリスマ運動に対する健全な理解を深め、聖霊の御業の大いなる進展に用いられますように。

〔解説〕

\* 去る7月20日の全国大会は約200名の参加者があり、有意義かつ盛んな聖会を持つことができ感謝でありました。かつて台湾独立運動の推進力であった台湾長老教会(代表 高俊明牧師)は日本キリスト教団と連帯関係を結びましたが、これは政治的連帯でした。その後、台湾長老教会の中に「更新服事団」(議長 高俊明、副議長 彭徳實)という聖霊刷新協議

会が結成され、今回、日本の聖霊刷新協議会と連帯しました。これは誠に意義深い霊的連帯であると言えるでしょう。

4) 日本のとりなしのために強い使命感を与えられている人が、あと1名委員の中に加えられるように。

5) 卵子の提供や代理出産が合法化されないように。

〔解説〕

\* 厚生労働省の生殖補助医療部会は8月15日、不妊夫婦のために第三者の女性が代わりに出産する代理出産について、国内で全面禁止とする昨年12月の専門委員会報告書を了承し、従来の方針を変更しないことを確認しました。今後は代理出産を実施した医師や仲介業者を罰する法律づくりが進められることとなります(8月16日朝日新聞朝刊参照)。この問題は親子関係の複雑化や提供を求められる側の心理的圧迫などの事柄と同時に人が神の領域に踏み込んで生命の尊厳を犯すおそれがあると思われる重大問題です。

6) 日本の学校において、日本の伝統を重んずる良い教科書が選ばれるように。

〔解説〕

\* 来春から4年間使われる小中学校や盲・ろう・養護学校の教科書採択手続きは8月15日までに全国的に終了しました。今回の教科書採択は教職員組合の主導性を排して、教育委員会主導のもとに行われるはずでしたが、扶桑社の「新しい歴史教科書」や「新しい公民教科書」を採択させまいとする勢力の圧迫や妨害活動はひどいものがありました。結果的には、市区町村立や国立の中学校では扶桑社の教科書は全く採択されず、養護学校4、ろう学校1、その他私立学校8等が扶桑社の教科書を採択しました。これまで左傾化した歴史教科書に対して、日本の伝統を重んずる意図を持った新しい教科書の出現は大きな挑戦でした。扶桑社の教科書は右からも左からも叩かれていますから、4年後にはもっとよく研究された新教科書が出現することが望めます。何しろ扶桑社の教科書が市販されて全国で50万部以上売れたことは興味深いことです。

7) 小泉構造改革が真の実効性を挙げることによって、日本に本格的な国際競争力を持った新産業が興されますように。また、予想される景気の停滞、失業率の増加など、産業構造転換にともなう痛みの中で、日本人にまことの神様に対する強い霊的渴仰が起こされ、リバイバルを経て、日本人が主にある希望を決して見失うことのない強靱な精神力をとビジョンを持つことができますように。こうして日本経済の実力が、21世紀の世界宣教のために大いに用いられますように。

〔解説〕

\* 参議院選挙は大方の予想通り自民党の圧勝に終わりました。今こそ、小泉総理が強力なリーダーシップを発揮されて、大胆な構造改革の実をあげていただく必要があります。構造改革というのは、要するに、高いコスト構造のためにもはや利益を生み出しえなくなった産業分野<建設、流通、不動産など>に国のお金-国家予算(公共事業費)、財政投融资資金(郵政庁を通じての郵貯や簡保マネー)-や民間資金による貸出金<銀行、保険、投資信託、企業年金など>が張り付いてしまって、なかなか将来性と国際競争力を持つ新産業に回らなくなってしまっているのです。お金の流れを抜本的に変えてしまおうというものです。その意味では、「産業構造革命」として捉えることのできるもので、その変化の度合いは、かつて石炭から石油へと移行したエネルギー革命や、18世紀の産業革命に匹敵しう程度のものだといえます。そのために政府は、まず、負の清算に属するべき事柄-金融機関等の不良債権

処理；これは民間企業からの銀行融資の引き上げを意味し、大量の倒産、失業を生む可能性があります。その他、特殊法人改革による財投資金の垂れ流しを止めること、等 - を進めながら、同時に新産業創造に属する将来志の政策 - 2002年度予算の重点配分、労働力の移行措置の支援、社会保障費の大胆な合理化；これは一時的には家計消費に打撃を与えますが、今やっておかないと、国家予算が破綻します。景気の本格的な浮揚を待つほかありません。 - 及び痛みの緩和措置政策を同時に進行しようとしています。まるで綱渡りのようなものですが、神様が政府の経済政策、運営を祝福し、やがて主の御国のために用いられるためにも、これを助けてくださいますように祈りましょう。

8)日本の頭脳を国家更正のために総結集できるように祈りましょう。また、日本のキリスト教会がキリストに在る真の愛国者や、売名や利権に走らないでその財力を神と国家のとに献げる金持を育てることができるよう祈りましょう。

9)日本政府がペルー元大統領フジモリ氏と義弟の元駐日大使アリトミ氏をペルー政府に引き渡さないように祈りましょう。

〔解説〕

\*フジモリ氏とアリトミ氏の身柄引渡しに頑として応じない日本政府に対してペルー政府は日本からの経済援助を取り付ける交渉を有利に展開するための糸口を模索しつつ強硬姿勢を続けているようです。（産経新聞7月31日朝刊参照）

10)イスラエルの平和のために。（詩篇 125:5）

〔解説〕

\*世界のマスコミに配信される中東関係の報道には偏りがあることがここ10年以上にもわたって続いています。それはイスラエルがアラブを一方的に攻撃したり、いじめたりしているという構図です。実際にはインティファダ（民族蜂起）を命じたPLOアラファト側からの投石や銃撃、爆弾テロなどが行われたのに対してイスラエルが報復するという構図であるのに、世界のマスコミはアラブ寄りの報道に偏っているのです。公正な報道が行われるように祈りましょう。

\*この事実上の戦争状態が早く終息して、中東戦争に発展しないように神の介入を祈りましょう。

## 《会計報告》(2001年6月1日～7月31日)

(単位 = 円)

収 入	金 額	支 出	金 額
献 金	52,610	交 通 費	29,120
		印 刷 費	0
		資 料 費	16,485
		郵 送 費	26,530
		事 務 費	1,100
		振替手数料	400
		電 話 料	6,372
小 計	52,610	小 計	80,007
前月繰越	51,244	翌月繰越	23,847
国内活動基金 収入	0	国内活動基金 支出	0
前月繰越金	15,700	翌月繰越金	15,700
国際会議参加基金 収入	0	国際会議参加基金 支出	0
前月繰越金	35,474	翌月繰越金	35,474
合 計	155,028	合 計	155,028

## 【献金者芳名】(順不同)

高砂教会(兵庫)	1回	川田哲裕(兵庫)	1回
日之出キリスト教会(大阪)	1回	出田秀信(熊本)	1回
相模大野教会(神奈川)	2回	匿名(栃木)	1回
札幌グレイス教会(北海道)	2回		
佐藤節代(神奈川)	1回		

## 【編集後記】

- \* ニュースレター9月号をお送りします。トップレポートはレムナント出版代表の久保有政先生が執筆して下さいました。
- \* 「日本にあった贖いの思想」は日本人の罪意識と汚れの思想が二つであって一つのものだということを教えてくれます。
- \* 第二次世界大戦後、アメリカの文化人類学者のルース・ベネディクト著「菊と刀」が出版され、和訳されて高い評価を受け、多くの人々に影響を与えたものです。彼女の論点の一つは、「日本文化は恥の文化、西欧文化は罪の文化」という見方です。日本人はキリスト教の影響を受けていないので罪よりも恥の意識が強い。しかし、西欧人はキリスト教の影響を受けているから

罪の意識が強いと対照的に見て比較論を展開するわけです。わたしは未だ20歳代の頃でしたが、この本の著者は未だ十分に日本文化の根底にあるものを知らないなと考えていたのを思い出します。

- \* 澤田教授の「カトリック教会の左傾化」という論文は、私の手許にコピーがありますので、全文をお読みになりたい方は、事務局皆川宛にお申し込み下さい。
- \* 委員の一人の行澤一人先生は、昇格して日之出キリスト教会副牧師となり、神戸大学法学部教授となられました。一層のご活躍が期待されています。

(ヨハネ 皆川尚一記)

## 《次回日本のとりなし委員会予告》

日時：2001年9月4日(火)12時00分

場所：キリスト公会 相模大野教会

